国立国会図書館月報

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2019.6

世界図書館紀行　東海岸三都物語

乱歩と活動写真
―リサーチの場としての帝国図書館

ミニ電子展示「本の万華鏡」第26回　恋の技法

698号　2019年6月

国立国会図書館月報

NO. 698
JUNE 2019

CONTENTS

1 アンリ・コルディエ『中国書誌』
―欧米における中国研究500年のパノラマ
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

5 世界図書館紀行
東海岸三都物語

18 乱歩と活動写真
―リサーチの場としての帝国図書館

23 ミニ電子展示「本の万華鏡」第26回
恋の技法　―恋文の世界―

22 館内スコープ
システムから来館利用サービスを支えます

29 本屋にない本
『京のかたな』

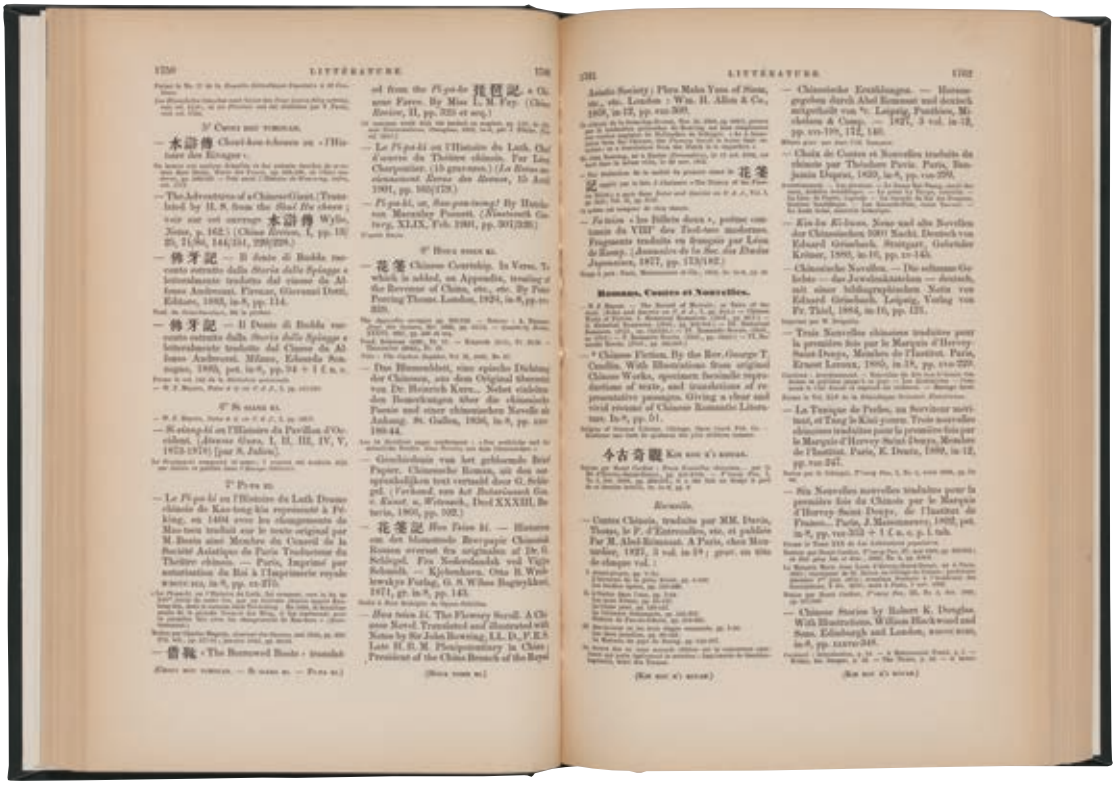
30 NDL Topics

表紙：
逸見享 著『水韻譜』
アオイ書房　昭和17　27cm
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1125090/13
（モノクロ画像）

今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

アンリ・コルディエ『中国書誌』
―欧米における中国研究500年のパノラマ

鴇田　潤



『中国書誌』第2版の3巻目
コラム番号1759～1762

Bibliotheca sinica
Dictionnaire bibliographique des ouvrages relatifs à l'Empire chinois
par Henri Cordier, 2. éd., rev., cor. et considérablement augm.
E. Guilmoto 1904-08　4 v. 28 cm＜請求記号 016.9151-C795b＞

『中国書誌』は、15世紀から20世紀初頭までに刊行された欧米言語の中国関係論著を網羅した中国研究書誌で、フランスの東洋学者アンリ・コルディエ（1849～1925）の代表作である。現在でも、中国研究者にとって欠かすことのできない基本的な書物と言える。

1878年の最初の分冊の刊行から、死の前年の1924年まで、46年にわたり増補を重ね、総ページ数（1頁左右2段に付されたコラム番号の総数）は4、400ページに達する。収録論著数が7万点（10万項目とも言う）にも及んだ畢生の大著は、100年を経たいまも入門者がまず手にすべき導きの書だ。ページを開けばそこには5世紀にわたる欧米の中国研究の壮大なパノラマが広がっている。

コルディエは1849年アメリカ生まれのフランス人で、3歳の時にフランスに帰国。1867～69年にイギリスで英語を習得した。パリで学び、古文書学校への進学を望んでいたが、実業家の父の意向で、1869～76年に上海のアメリカ系貿易会社ラッセル商会に勤務。上海滞在中に、王立アジア学会北中国支部の名誉図書館員となり、『王立アジア学会北中国支部図書館目録』（1872）を編纂した。

アンリ・コルディエ(Henri Cordier)の肖像。
『コルディエ文庫分類目録』慶応義塾大学附属研究所斯道文庫 編集・発行 1979.3＜請求記号 UP171-145＞

B 第2版の1巻目の標題紙。

A 初版の1巻目の標題紙。
1880年スタニスラス・ジュリアン賞受賞、とある。

◀補遺

C 第2版（1904～08）＋補遺（1922～24）
＜請求記号 衆0130-0003＞
総ページ数　4,439ページ

B 第2版（1904～08）
＜請求記号 016.9151-C795b＞
総ページ数　3,252ページ

◀補遺

A 初版（1881～85）＋補遺（1893～95）
＜請求記号 100-235＞
総ページ数　2,243ページ

1877年パリに戻ると、翌78年に『中国書誌』の刊行を開始した。1890年にはオランダの東洋学者グスタフ・シュレーゲル（1840～1903）とともに『通報』*T'oung pao*を創刊した。同誌は東洋学研究の世界的な学術誌としていまに続いている。

『中国書誌』は刊行中の1880年にスタニスラス・ジュリアン賞を受けた※。コルディエはその後、1881～85年に分冊をまとめた初版2巻を刊行。さらに、1893～95年に分冊で刊行したものをまとめた補遺1巻を刊行した（A）。9年後の、1904～08年には、補遺の項目を編入し、さらに増補改訂を加えた第2版4巻を刊行した（B）。

その後、初版あとがき（1895）で予告していた『日本書誌』[1]、『インドシナ書誌』[2]をそれぞれ1912年、1912～15年に刊行し、3部作の完成かと思われた。ところが、『中国書誌』については、増補をやめることなく、再び1922年からさらなる補遺の分冊での刊行を開始して、死の前年の1924年まで続いた（C）。

※スタニスラス・ジュリアン（1799～1873）はフランスの中国学者。1875年から、中国学の優れた成果に対し、彼の名を冠した賞が贈られている。

『今古奇観』を例に

増補の過程を『中国書誌』の実際のページを使って紹介する。
『今古奇観』は40篇を収録する明代の短編小説選集。さまざまな言語に翻訳・紹介され、各国の当時の文学に大きな影響を与えた。
日本では江戸時代に3篇を選び訳出した『通俗古今奇観』が流行。なかでも「売油郎独占花魁」は翻案も多い。
ラフカディオ・ハーン（1850～1904）はフランス語訳された一話をもとに「孟沂のはなし」をつくった。

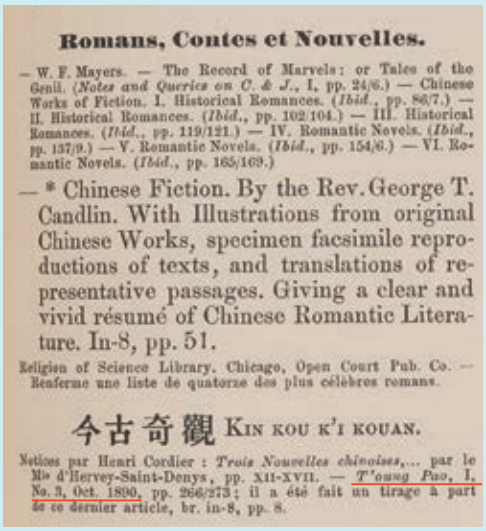
A 初版（1881～85）＋補遺（1893～95）

1巻目 コラム番号809より

第1部のなかの分類「文学」をさらに細分類した「長編・短編・中編小説」の見出しのもとに収録されている。短編選集として、40篇の内容細目が掲載されている。

B 第2版（1904～08）

3巻目 コラム番号1761～1769より


Romans, Contes et Nouvelles.

— W. F. Mayers. — The Record of Marvels; or Tales of the Genii. (*Notes and Queries on C. & J.*, I, pp. 24/6.) — Chinese Works of Fiction. I. Historical Romances. (*Ibid.*, pp. 86/7.) — II. Historical Romances. (*Ibid.*, pp. 102/104.) — III. Historical Romances. (*Ibid.*, pp. 119/121.) — IV. Romantic Novels. (*Ibid.*, pp. 137/9.) — V. Romantic Novels. (*Ibid.*, pp. 154/6.) — VI. Romantic Novels. (*Ibid.*, pp. 165/169.)

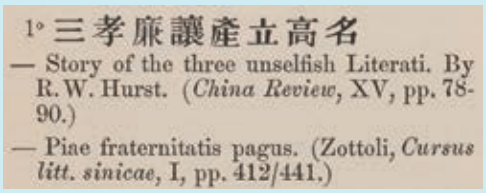
— * Chinese Fiction. By the Rev. George T. Candlin. With Illustrations from original Chinese Works, specimen facsimile reproductions of texts, and translations of representative passages. Giving a clear and vivid résumé of Chinese Romantic Literature. In-8, pp. 51.

Religion of Science Library. Chicago, Open Court Pub. Co. — Renferme une liste de quatorze des plus célèbres romans.

今古奇觀 KIN KOU K'I KOUAN.

Notices par Henri Cordier : *Trois Nouvelles chinoises,...* par le Mis d'Hervey-Saint-Denys, pp. XII-XVII. — *T'oung Pao*, I, No. 3, Oct. 1890, pp. 266/273 ; il a été fait un tirage à part de ce dernier article, br. in-8, pp. 8.

『通報』1巻3号(1890)とある。コルディエは最初、書誌を『通報』(2ページ参照)に掲載。その後、初版の補遺に採録した。第2版編集にあたって、『今古奇観』のタイトルのもとに編入したのである。

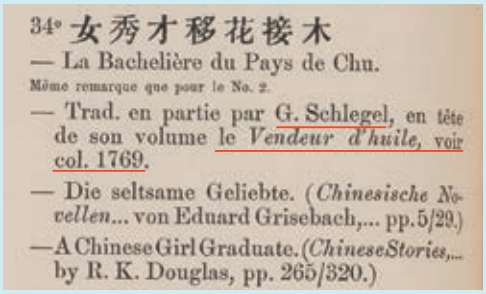

1° 三孝廉讓產立高名

— Story of the three unselfish Literati. By R. W. Hurst. (*China Review*, XV, pp. 78-90.)

— Piae fraternitatis pagus. (Zottoli, *Cursus litt. sinicae*, I, pp. 412/441.)

Aの初版では情報がなかった第1話「三孝廉讓産立高名」に情報が追加されている。

この第34話「女秀才移花接木」が、ハーンの『中国怪談集』*Some Chinese Ghosts*（1887）の一話「孟沂のはなし」"The Story of Ming- Y"（邦題は平井呈一訳による）の原話である。『中国怪談集』の原著者解題を見ると、原話のシュレーゲルによるフランス語訳に基づいており、それがシュレーゲル編訳刊行の『売油郎独占花魁』（1877）に収録されていることがわかる。
*Some Chinese Ghosts*は1887年の初版の刊行よりだいぶ遅れて1910年刊のものが補遺のコラム番号3975に掲載されている。


34° 女秀才移花接木

— La Bachelière du Pays de Chu.

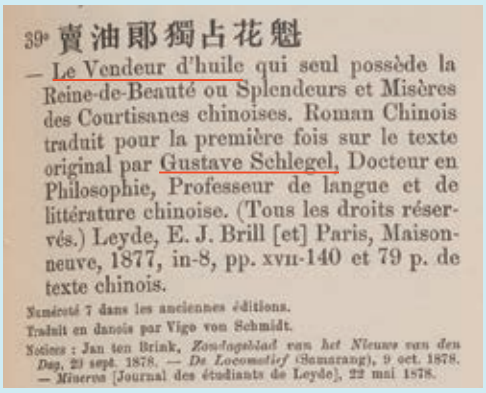
Même remarque que pour le No. 2.

— Trad. en partie par G. Schlegel, en tête de son volume le *Vendeur d'huile*, voir col. 1769.

— Die seltsame Geliebte. (*Chinesische Novellen*... von Eduard Grisebach,... pp. 5/29.)

— A Chinese Girl Graduate. (*Chinese Stories*,... by R. K. Douglas, pp. 265/320.)

◀シュレーゲル訳を収める『売油郎独占花魁（le Vendeur d'huile＝油売り）』についてはコラム番号1769を見よ、とある。


39° 賣油郎獨占花魁

— Le Vendeur d'huile qui seul possède la Reine-de-Beauté ou Splendeurs et Misères des Courtisanes chinoises. Roman Chinois traduit pour la première fois sur le texte original par Gustave Schlegel, Docteur en Philosophie, Professeur de langue et de littérature chinoise. (Tous les droits réservés.) Leyde, E. J. Brill [et] Paris, Maisonneuve, 1877, in-8, pp. XVII-140 et 79 p. de texte chinois.

Remarqué 7 dans les anciennes éditions.

Traduit en danois par Vigo von Schmidt.

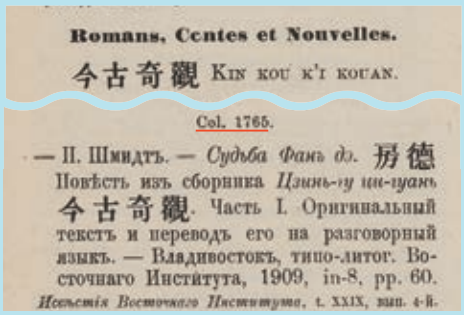
Notices : Jan ten Brink, *Zondagsblad van het Nieuws van den Dag*, 23 sept. 1878. — *De Locomotief* (Semarang), 9 oct. 1878. — *Minerva* [Journal des étudiants de Leyde], 22 mai 1878.

◀コラム番号1769に掲載されている第39話「売油郎独占花魁」。

C 第2版（1904～08）＋補遺（1922～24）

5巻目補遺 コラム番号3935より

第2版本体のコラム番号1765に編入すべき情報であることが示されている。
補遺には、本編刊行後に出版されたもののほか、前述のハーンの『中国怪談集』のように前回採録に漏れたものなどが掲載されている。
ちなみに「房徳」は人名で、第16話に登場する。

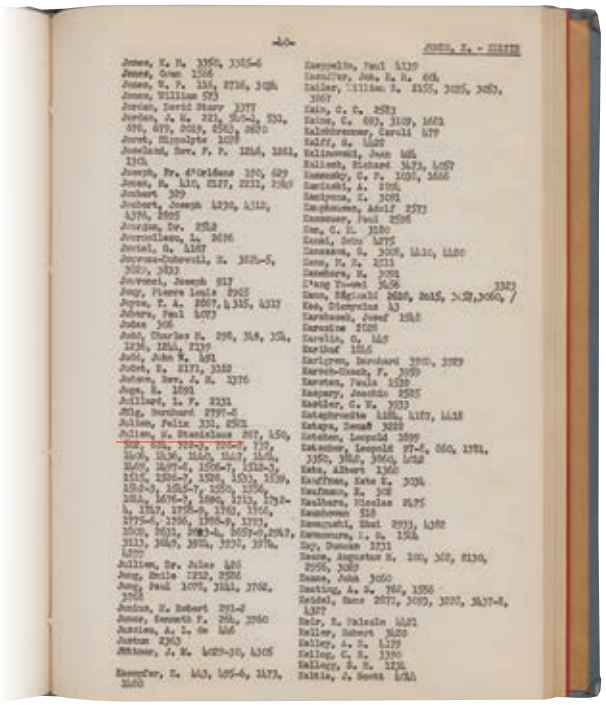

Romans, Contes et Nouvelles.

今古奇觀 KIN KOU K'I KOUAN.

Col. 1765.

— П. Шмидтъ. — *Судьба Фанъ дэ.* 房德 Повѣсть изъ сборника *Цзинь-гу ци-гуань* 今古奇觀. Часть I. Оригинальный текстъ и переводъ его на разговорный языкъ. — Владивостокъ, типо-литог. Восточнаго Института, 1909, in-8, pp. 60.

Известія Восточнаго Института, t. XXIX, вып. 4-й.



予定をしていた索引の作成は叶わず、後世、1953年にコロンビア大学が第2版および補遺の著者名索引を作成した。収録著者数は7,700名。スタニスラス・ジュリアンの名も見える。

Author index to the Bibliotheca sinica by East Asiatic Library, Columbia University Libraries; Columbia University Libraries, 1953
＜請求記号 016.9151-C795a＞

1 *Bibliotheca japonica; dictionnaire bibliographique des ouvrages relatifs à l'Empire japonais rangés par ordre chronologique jusqu'à 1870, suivi d'un appendice renfermant la liste alphabétique des principaux ouvrages parus de 1870 à 1912,* par Henri Cordier
Imprimerie nationale, E. Leroux 1912＜請求記号 016.9152-C795b＞

2 *Bibliotheca indosinica; dictionnaire bibliographique des ouvrages relatifs à la péninsule Indochinoise,* par Henri Cordier
Imprimerie nationale, E. Leroux 1912-1915 4v＜請求記号 016.9159-C795b＞

3 *Ser Marco Polo*; notes and addenda to Sir Henry Yule's edition, containing the results of recent research and discovery, by Henri Cordier
J. Murray 1920＜請求記号 GE84-21＞

4 *Cathay and the way thither; being a collection of medieval notices of China*, tr. and ed. by Colonel Sir Henry Yule. New ed., rev. throughout in the light of recent discoveries, by Henri Cordier Printed for the Hakluyt Society 1913-1916 4 v＜請求記号 915.1-Y95c＞

○参考文献

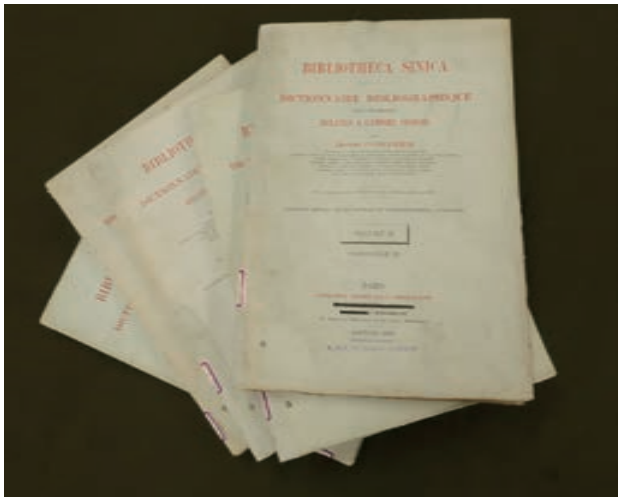
石田幹之助「支那に関する欧文文献の書目に就いて」『欧米に於ける支那研究』創元社　1942＜請求記号 122-I541o＞

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編『図説書誌学　古典籍を学ぶ』勉誠出版　2010.12＜請求記号 UM11-J36＞

礪波護「コルディエ」『東洋学の系譜　欧米篇』高田時雄 編著　大修館書店 1996.12＜請求記号 GE41-E18>

雪嶋宏一「書誌索引家列伝　ビブリオグラファーとしてのコルディエ」(1) - (3)『書誌索引展望』8巻4号 - 9巻2号　日本索引家協会、日外アソシエーツ(発売) 1984.11 - 1985.5＜請求記号 Z21-864＞

『中国書誌』第2版の製本していない状態のもの。＜請求記号 VF5-Y2043＞



『中国書誌』は5部からなり、第1部が中国の地理・風俗・歴史・文学など中国研究の本編で、第2部以降が、旅行記の記述や伝聞など、欧米人の中国に関する知見とその研究、また、外交、中国人の海外知識、他国・隣国との関係を扱った部編となっている。

コルディエは書誌以外に、イギリスの東洋学者ヘンリー・ユール（1820～89）の「東方見聞録」英語訳注である『マルコ・ポーロの書』第3版（1903。初版は1871）への補注（1920）[3]、同じくユール編訳の東西交渉史関係文献集成『中国および中国への道』（1866）への増補（1913～16）[4]が有名で、自らも中国外交関係の著作がある。こうした、地理学的関心が『中国書誌』の構成にも見てとれる。

『中国書誌』は、各主題についての文献を見渡せる便利なツール、研究の近道である一方、いくつも小径が用意され、寄り道を誘う豊かな記述にみちた魅惑の書でもある。本書を手に取って、一歩足を踏み入れてみてほしい。たどった道のその先で、急に視界がひらけ、思わぬ広々とした光景を目にすることになるだろう。

世界図書館紀行

東海岸三都物語

Boston

kazuo Asai

New York

Eri Matsuda

Washington D. C.

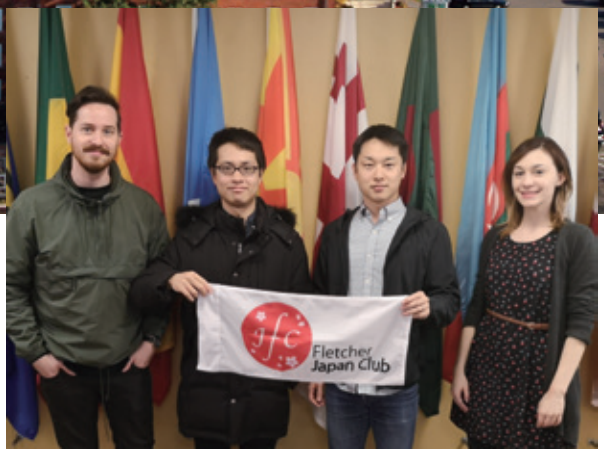
Sosuke Fujita

国立国会図書館では、在外研究制度として、職員に海外留学の機会があります。また、海外出張で資料収集も行っています。
2019年5月現在、アメリカ東海岸の3地域に3人が滞在しています。3人に、街の様子、図書館や文書館、そして自身の研究や収集業務について、リポートしてもらいました。

Boston

浅井 一男

タフツ大学キャンパスとボストン市街



フレッチャージャパンクラブ（後述）の幹事、右から二人目が筆者

フレッチャースクールへの留学

私は現在、在外研究制度により留学の機会をいただき、２０１７年７月からアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンに派遣されています。タフツ大学フレッチャー法律外交大学院（フレッチャースクール）の修士課程に在籍し、国際関係を専攻しています。

派遣前の直近の部署では、外交・防衛分野の調査の仕事を担当しており、特に日米関係や在日米軍基地問題について調査する機会が多くありました。そのため、国際関係の研究で著名なアメリカのフレッチャースクールへの進学を決めました。

フレッチャースクールは、タフツ大学とハーバード大学の提携により、アメリカで初めて国際関係を専門とする大学院として１９３３年に設立されました。以来、外務省・国防省・軍などの政府機関、国際連合をはじめとする様々な国際組織、ＮＧＯなど、国際関係に関わる公共部門を中心に人材を輩出してきました。

See also...
「世界図書館紀行　ボストン」（632(2013 年 11 月）号）

フレッチャー
スクール

（左上）ダウンタウンの Old South Church
（左下）市内の住宅
（右下）クインシーマーケット。1820 年代に作られた歴史的な商業施設

フレッチャースクールの特徴は、アカデミックで柔軟性に富むカリキュラムと、協調性を重視する校風です。前者については、歴史や政治など、アカデミックな科目が多いこと、卒業には学術論文の提出が課されていること（アメリカの多くの専門職大学院では、学術論文の提出が卒業要件となっていない）、そして、必修科目が少なく、22ある研究分野から自由に科目を選択できることが挙げられます。後者については、多くの授業でグループワークが導入されていること、学校が、さまざまなイベントを通じて学生同士の交流を促進し、コミュニティづくりに力を入れていることがあります。大学院の規模が小さいこともあり（一学年200名程度、留学生比率は約4割）、ほとんどの学生とは顔見知りで、学生の仲はいいと思います。

私は、これまでの業務の経験と学術的関心から「安全保障」と「アジア太平洋地域の国際関係」を研究分野として選択し、関連の科目を履修しています。学術論文では、アメリカの海外基地政策をテーマとし、海外基地が形成された冷戦初期の政策決定過程について研究するとともに、現在の東アジアにおけるアメリカ軍のプレゼンスのあり方を考える上での含意を分析するべく取り組んでいます。

ボストンについて

ボストンは17世紀前半にイギリスから渡ってきた清教徒によって築かれた街で、アメリカで最も古い街のひとつとされます。「ボストン茶会事件」、「レキシントン・コンコードの戦い」（ボストン郊外）など、アメリカ独立革命の舞台でもあり、多くの歴史的な建造物や史跡を見ることができます。また、ボストンはニューイングランド地方の政治経済の中心地であるとともに、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学など、多くの教育・研究機関が置かれ、学術都市としても知られています。海に面した街ですので、海産物が豊富で、クラムチャウダーやロブ

フレッチャースクール
ギン図書館

タフツ大学ティッシュ図書館

（左）1926年に建てられた学生寮（ブレイクリーホール）、約90名のフレッチャースクールの学生が住んでいます

キャンパスにて

スター料理が有名です。

人種構成や外国人比率という点から、ボストンには様々な人がおり、留学生にとって住みやすい街だと感じます。加えて、アメリカの都市にしては珍しく、地下鉄や路面電車など公共交通機関がよく整備されており、車がなくても特に不便はありません。治安も良く、街も比較的きれいです。ボストンは札幌とほとんど同じ緯度の高さで、冬は雪が多く大変寒くなりますが、四季があり季節の変化を感じられます。街には緑が多く、公園や大学のキャンパスには野ウサギやリスなどがいます。

一方で、生活コストの高さ、長い冬、人々が不愛想（他のアメリカの地域と比較して）、車の運転が乱暴であることなどが、ボストンの悪い点としてよく挙げられます。

タフツ大学の図書館とボストンの著名な図書館

私が通うタフツ大学のメインキャンパスには2つの図書館があります。フレッチャースクールに付属するギン図書館と、タフツ大学の中央図書館であるティッシュ図書館です。ギン図書館は小規模ですが、蔵書は国際関係に特化し、授業や論文の作成などで活用する機会が多いです。ティッシュ図書館は大規模で、館内にカフェテリアや展示室、シアターを備えるなど、施設が充実しています。いずれも、学生の勉強のために、自習スペースや会議室、コンピュータ・ラボなどを備えており、学期中は朝8時から深夜1時まで開館しています。電子資料も充実しており、タフツの学生は大学図書館のウェブサイトから700以上の電子データベースにアクセスすることができます。また「ボストン図書館コンソーシアム」に加盟する18の図書館の蔵書の利用や、フレッチャースクールの学生については、ハーバード大学図書館の利用も可能です。

ボストン地域で最も有名な図書館としては、ボストン公共図書館が挙げられます。ボストン公共図書館は1848年に設立されたアメリカ最古の公共図書館であり、近代図

ボストン公共図書館

（左上から）アメリカ海軍最古の現役艦コンスティテューション号。ボストンが母港／カヤックでチャールズリバー下り。ダウンタウンを望む

（右）フレッチャースクールには、学術、文化、スポーツなど、異なるテーマを持つ約 70 の学生クラブがあります。ジャパンクラブは、日本に関心を持つ学生が集まり、日本専門家を招いての講演会、折り紙や書道などの文化体験、日本をテーマにした映画上映会など、日本の政治・経済・社会・文化を紹介するイベントなどを主催しています。写真は書道イベント、文化交流イベント（アジアナイト）でのソーラン節の披露

書館のモデルと言われます。歴史的な建物や内部の装飾、貴重なコレクションは観光資源にもなっており、図書館利用者以外も多くの人が訪れます。現在では、蔵書数約３２００万点と、アメリカ議会図書館及びニューヨーク公共図書館に次ぐ規模となっています。※そのほかにも、ハーバード大学図書館（蔵書数約２０００万点、全米４位※）、ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館など、著名な図書館があります。

留学生活と今後

大学院での学生生活は、予習や課題、テストなど忙しい毎日ですが、その分、多くの学びを得られている実感があります。何よりも、様々なバックグラウンドを持つ人々に囲まれ、異なる価値観や意見に触れて、自分の視野を広げられたことは得難い経験であると感じます。例えば、これまで大学院で、アメリカ軍の特殊部隊の元隊長やルワンダ大虐殺のサバイバー、イスラム教国出身の同性愛者、オリンピックの金メダリストといった方々に出会いました。ほかにも、大学院の夏季休暇中に、東欧への研修旅行に参加し、黒海地域の政治経済について学んだことや、アメリカ国内を旅行し、アメリカ社会の多様性について見聞を広めたことも貴重な経験になりました。

この原稿を執筆している時点（２０１９年２月）で、２年間の修士プログラムの最終学期です。帰国まで半年を切りましたが、修士論文の作成や授業などを通じて、専門分野の知識や英語能力の向上に努め、将来、調査や国際的な業務で役に立てるよう、一日一日を大切に過ごしたいと思います。

※ https://libguides.ala.org/librarystatistics/volumesheld

紅葉したタフツ大学キャンパス

New york

松田 恵里

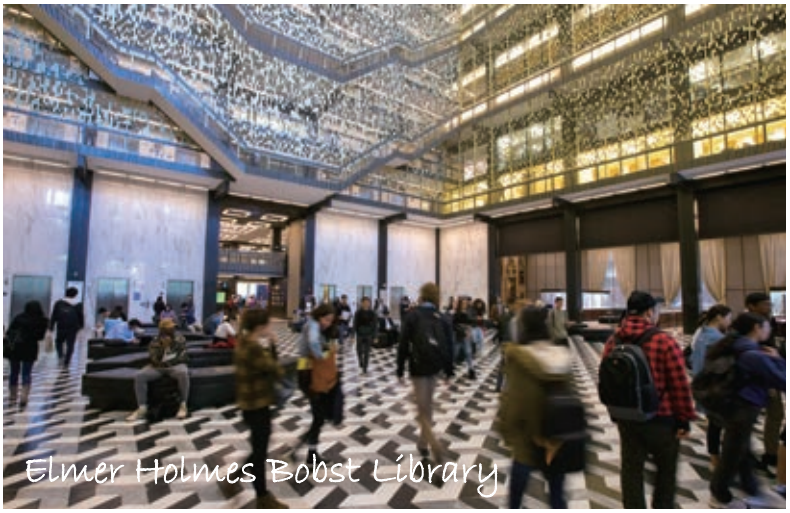
（右）19 世紀半ばに作られたセントラル・パークはニューヨーカーたちの癒しの場です。紅葉の時期は特に賑わいます
（左）ユニオン・スクエアでぱしゃり。ニューヨークにはセントラル・パークの他にも小さな公園がたくさんあります

ニューヨーク大学への留学

私は、２０１８年９月より、アーカイブ(1)についての専門的な知識を身につけるために、ニューヨーク大学のアーカイブズ及びパブリックヒストリープログラム修士課程で勉強をしています。留学前は政治史料課で主に日系移民や日本占領関係のアーカイブ資料の整理などを担当していました。ニューヨーク大学はとてもリベラルな大学で、今まで聞いたことのないような面白い授業をたくさん提供しています。私は現在、地域社会に基づいたアーカイブズの実践や問題点などを学ぶクラスと、ＬＧＢＴＱヒストリーにフォーカスを当てながら、デジタルエクシビションやアーカイブをいかに作っていくかを学ぶクラスを受講しています。どの授業も机に座って勉強するだけでなく、アーカイブズに実際に行って資料を探してその資料に関するニュースレターを書いたり、デジタルプロジェクトをクラスメイトと協力して推進するなど、とても実践的です。

（1）ここでのアーカイブとは、個人や組織等に関する永久的な価値を持つ、現在は使われていないけれども長期的利用のために保存される記録のことを意味します。また、このように定義される記録を保存する場所もアーカイブと呼ばれます。

ニューヨーク公共図書館本館



ニューヨーク大学
エルマー・ホームズ・ボブスト図書館

ニューヨークと主要な図書館

ニューヨーク市は、マンハッタン、ブルックリン、クイーンズ、ブロンクス、スタテン島の5つの行政区から成り立つ、多様性豊かな街です。ニューヨークには色々な国の人たちが住んでおり、街を歩いているといろんな国の言葉が聞こえてきます。実際に、800以上の言語が話されていると言われています。

はじめに紹介するのは、ニューヨーカーたちの知識を支えているニューヨーク公共図書館です。ニューヨーク公共図書館は、マンハッタン、ブロンクス、スタテン島に所在する88の図書館と4つのリサーチセンターから成ります（ブルックリン、クイーンズはそれぞれ異なる公共図書館システムを持っています）。なんと、電子書籍やDVDも含みますが、全館合わせての蔵書数は5500万というとても規模の大きな公共図書館です。中でも、1911年に開館した5番街に面する本館は大変美しいことで有名で、絶え間なく多くの観光客を惹きつけています。また、リサーチセンターも個性的で、例えば、ハーレム地区にあるショーンバーグセンターはアフリカンアメリカンに関する資料に特化しているほか、毎週様々なイベントを開催しています。

私が学んでいるニューヨーク大学も、支部図書館含めた全館で合計約600万冊[2]の書籍と約28万タイトルの定期刊行物を収集している図書館を有しています。特に、本館のエルマー・ホームズ・ボブスト図書館は、12階建ての吹き抜け構造となっており、床はベネチアの教会を模しています。勉強に疲れた大学生たちにひと時の安らぎを与えています。授業期間中は、1日平均で学生約1万人がエルマー・ホームズ・ボブスト図書館を訪れるそうです。図書館で勉強している学生は、中国からの熱心な留学生がほとんどで、図書館で勉強していると中国に留学しに来たんだったかなと錯覚を起こします。

(2) 2015-16の数値。

Interference Archive

LGBT Archive

LGBT アーカイブは LGBT 関連の書籍を扱う図書館も兼ねているので、本もたくさんあります

インターフェレンスアーカイブでは、展示も頻繁に行われています。左のポスターは、オーストラリアのソーシャルムーブメントポスターに関する展示で使われたものです

Posters from the collection of Alison Alder, used in the Hi-Viz: Australian Political Posters 1979–2019

図書館の次は、ニューヨークのアーカイブを2つ紹介したいと思います。ニューヨークには公共のアーカイブだけではなく、民間団体やボランティアによって運営されているアーカイブも数多くあります。

まず、LGBTコミュニティセンター・ナショナルヒストリーアーカイブ（LGBTアーカイブ）をご紹介します。1990年にスタートした当初は、全ての運営をボランティアが担っていましたが、2017年より常勤としてアーキビストのカイトリンさんが働き始めました。カイトリンさんは、以前はメトロポリタンミュージアムというとても大きな美術館のアーカイブで働いていましたが、小さなアーカイブで自分の力を試してみたいと思い、LGBTアーカイブの仕事に応募したそうです。ただ、今もボランティアがアーカイブの運営を支えています。現在は、161のコレクションが公開されています。

次に、ブルックリンにあるインターフェレンスアーカイブ（直訳すると「干渉アーカイブ」。社会の主流派の流れに干渉して、新たな潮流を作るという意図からこの名前にしたそうです。）を紹介します。このアーカイブは、ソーシャルムーブメントに関する記録を保存することを目的としており、すべてボランティアで運営されています。現在、なんと約100人がボランティアとして登録しているそうです。積極的にトークイベントや展示などを行っています。

興味深いのは、ほかのアーカイブは資料を閲覧申請しないと見ることができないのに対して、インターフェレンスアーカイブでは、多くの人にソーシャルムーブメントに関する情報を共有するという目的から、利用者は自由に開架の資料を手にとって見ることができます。その代わり、保存が難しい資料は寄贈を受け付けないほか、ソーシャルムーブメントに関わった個人が不利になるような個人情報が記載されている資料の寄贈は受け付けないようにしています。

ニューヨークは、たくさんの面白い場所があって、人がいて、とても刺激的な街です。この街で、日本に帰ってから活かせるようなことをこれからも学んでいきたいと思います。

虹色の旗のほか、「公平」と書かれた旗もあります。紙資料以外も収集していることがわかります

街ではストリートアートをよく見かけます

素敵な看板三人娘が迎えてくれます。

私がよく行くベーグル屋さんを紹介したいと思います。マンハッタンにあるとても人気のお店で、いつもお客さんでいっぱいです。もちもち、しっとりしつつ、小麦の味もしっかり感じることのできるおすすめベーグルです。人気のメニューはクリームチーズとスモークサーモンのベーグルだそうです。
なお、店員さんは全てタイから移住して来た人だそうです。もともとポーランドのジューイッシュ（ユダヤ教徒）の食べ物のベーグルを、ニューヨークでタイの人たちが作っている…ニューヨークの多様性を感じました。

Washington D.C.

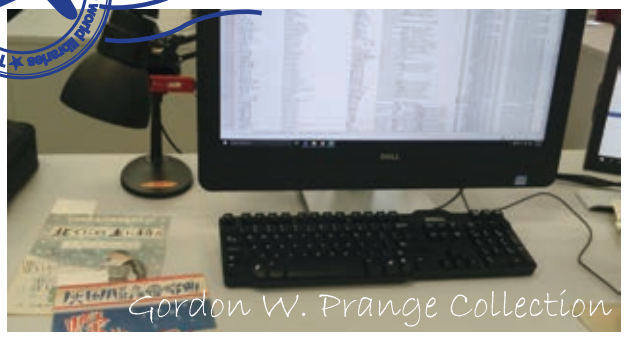
藤田 壮介

ワシントン D. C. の玄関口、ユニオン駅

ワシントンD.C.での資料収集

私は2018年6月から、日本占領関係資料収集業務のため、ワシントンD.C.に滞在して、資料調査の日々を送っています。調査は主に米国国立公文書館（以下NARA）とメリーランド大学プランゲ文庫（以下プランゲ文庫）の2機関で行っています。

NARAは、米国の公文書館として連邦政府の記録を管理しています。スミソニアン博物館やナショナルギャラリーなどがあるナショナル・モールにほど近い本館は、アメリカ合衆国憲法や独立宣言の原本を展示しており、全米から多くの人が訪れる施設です。私が作業しているのは、その本館からシャトルバスで50分ほど移動したArchives Ⅱと呼ばれる建物で、各国から多くの研究者が訪れています。



プランゲ文庫がある、メリーランド大学のホーンベイク図書館

NARA では資料の入った箱がカートに乗せられて利用者に届けられます

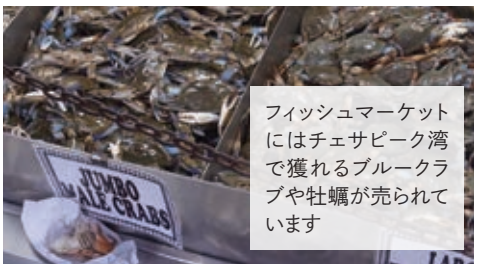
NARAに収められている膨大な公文書の中に、戦後日本にやってきた占領軍に関する文書類が残されています。当館は1978年以来、それらの資料を撮影して、複製物（かつてはマイクロフィルム、現在はデジタル画像）の収集を続けてきており、現在は、米極東軍参謀部の文書収集に取り組んでいます。現地での私の業務は、収集予定の文書をチェックし、メタデータを作成するとともに、重複などにより撮影の必要がない資料を指定する、撮影後に撮影漏れがないか確認する、といった撮影に関する事前・事後処理が中心です。資料がドサッと入れられた箱を開け、探している人の目に届くような状態に整えていく、地味ながら重要な作業です。

私のもう一つの調査先であるプランゲ文庫は、メリーランド大学図書館の特殊コレクションの一つです。同大学の教授であり、第二次大戦後の日本占領軍の一員（参謀第二部で戦史編纂を担当）でもあったゴードン・W・プランゲ博士の名前が冠されています。占領軍は、検閲を行うために出版者に出版物を提出させており、その結果、検閲を実施していた期間の出版物が網羅的に集積されていました。それらの資料をまとめてメリーランド大学に移送するように交渉を重ねたのがプランゲ博士です。この移送の結果、メリーランド大学の所蔵となったプランゲ文庫は、占領期の検閲の実態を探ることはもちろん、占領下の日本における出版活動を知る上でも欠かせない資料群です。

当館はプランゲ文庫との共同事業により、それらの出版物の複製を作成して収集を行っています。現地で私が担当している業務は、いずれデジタル化して収集する予定の資料のメタデータ整備と状態確認が主な内容です。現在は楽譜に着手しており、戦後間もない時期の日本において、流行歌・歌謡曲の楽譜がとてもたくさん出版されていたことに驚かされています。どれも非常に薄く、傷みやすい資料ですが、表紙が綺麗な絵で飾られていることも多く、デジタル化までこの状態を維持できるよう、保管にも気を配っています。

大使館等の建物（右上から時計回りに、ブラジル大使館、ボリビア大使館、イスラミックセンター、ベトナム大使館）

昨年末から１月下旬までは、多くの政府機関が閉鎖されていました



フィッシュマーケットにはチェサピーク湾で獲れるブルークラブや牡蠣が売られています

NARAとプランゲ文庫での資料収集は、どちらも、海外にある日本関係の資料の収集を行い、日本国内で役立ててもらうという、国立の図書館ならではの事業です。双方とも収集完了まではまだ時間がかかりそうですが、私の任期が終わっても、次の担当者に引き継ぎ、着実に最後まで進めていけたらと思っています。

ワシントンD.C.での生活

米国での生活というと、車社会、庭付きの戸建てに住んで夏は庭でバーベキュー、という漠然としたイメージがありました。実際に来てみると、10階建てのアパートの一室に住み、調査先には地下鉄とバスで移動、食料品の調達も徒歩圏内のスーパーで大抵はこと足りる、ということで、居住・生活環境自体は、私が現在生活しているワシントンD.C.では日本の都市部とそれほど大きな違いはありません。とはいえ、スーパーで売られている食材などは、日本と同じようなものでも少し違っていたりして、興味深い点が多いです。ビーガン向けやグルテンフリーな食品の選択肢が多かったり、牛乳やヨーグルトも乳脂肪分を低くしたものがむしろ主流だったりすることからは、健康的な食生活への志向を感じます。

ワシントンD.C.には、米国の首都として、ホワイトハウスや議事堂があり、それらを見るために多くの観光客が訪れます。また、10を超える大学や各国の大使館が置かれていることもあり、様々な外国人が生活しています。昨年のサッカーワールドカップの頃には、スーパーでワインを買うためパスポートを提示したところ、レジの人がセネガル人で、ちょうど日本対セネガル戦があったため、サッカーの話を振られたり、といったこともありました。そういう土地柄か、ネイティブでない英語に対しても、かなり寛容に理解しようとしてくれているように思います。

こちらに来てから、独立記念日、ハロウィン、感謝祭、クリスマスなどのイベントを過ごしてきました。クリスマスの時期には、ホワイトハウスや議会など公的機関がそれぞれのクリスマスツリーを飾り、各所で

左の写真に写っている碑は、
最初に植えられた桜を記念するものです

（上）議事堂前の広場に野外クリスマスツリーが
（下）ハロウィンのちょっと不気味な飾り付け

手前が筆者

（絵：正保（しょうほ） 五月（さつき））

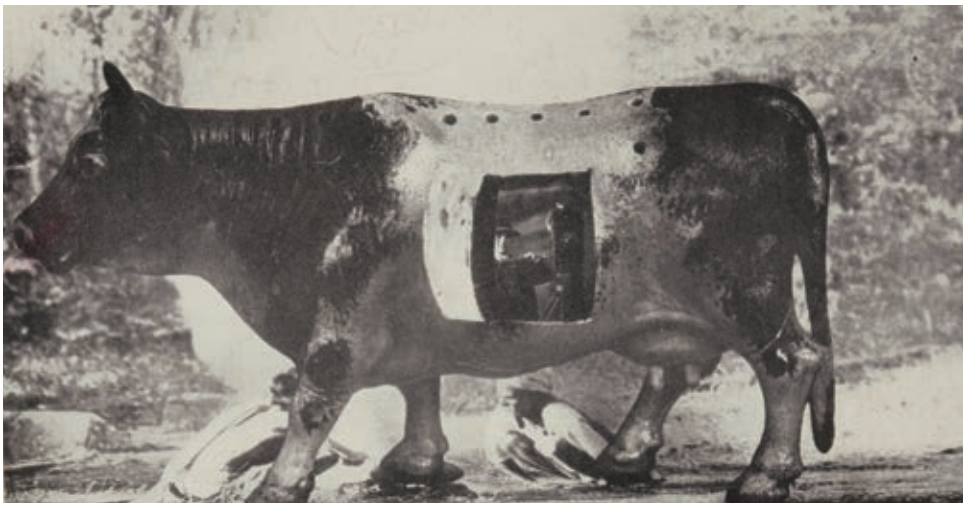
ライトアップイベントやクリスマスマーケットが開かれるなど、なんとなく浮き立った雰囲気でしたし、ハロウィンも、仮装姿はあまり見かけませんでしたが、やや不気味な飾りつけを行っている家を多く見かけました。

それらのイベントの中でも、日本人にとって特別で、ワシントンD.C.ならではのイベントと言えば、National Cherry Blossom Festival（桜祭り）でしょう。雪はあまり多く降らないとはいえ、東京に比べれば寒い冬の時期を乗り切って、春が来たことを感じる時期です。１９１２年に日本から贈られ植樹された桜が、ワシントン記念塔の南に位置する入江（タイダルベイスン）の周りで花開きます。桜の開花時期を中心に四週間にわたって凧揚げの日や花火の日、パレードの日など、様々なイベントが繰り広げられます。満開の頃には多くの人が訪れ、桜を楽しんでおり、ワシントンD.C.の春を祝うイベントとして根付いていると感じました。

乱歩と活動写真
―リサーチの場としての帝国図書館

藤元 直樹

江戸川乱歩肖像
『書物展望』９巻４号 通号94号　1939.4＜請求記号 Z020.5-Sy1＞



Practical cinematography and its applications by Frederick A. Talbot ＜請求記号 203-166＞

張りぼての牛。くり抜かれた胴体の向こうにはカメラを持った男。果たしてこれは…。

大正12（１９２３）年、雑誌『新青年』に短編小説「二銭銅貨」でデビューした江戸川乱歩は、たちまちのうちに、今日、ミステリ小説として親しまれるジャンルを代表する作家となり、書誌的な研究や後進の育成にも意を用い大乱歩という呼称をもって敬されることになる。

もっとも、この大家にも助走時期にあたる試行錯誤の時代があった。作家以前の職業遍歴の中で有名なのは古本屋であるが、それ以外で着目されるのが映画人たらんとしたところである。

１９２０年代には谷崎潤一郎が大正活映の顧問となったり、川端康成らが衣笠貞之助と組んで、映画製作に関わるなど、文芸界から積極的に映画に関わる動きが目立つが、乱歩が映画を志向したのはそれより数年早く、日本ではまだまだ見世物の域を脱しきれていない時期のことである。

録音と映像を同期させて再生する技術が確立されて今日の「発声映画」が主流となる以前、映画は音声抜きの動画単体で「無声映画」として製作され、そこに楽士が音楽を付け、弁士が台詞と説明を口頭で加える形で興行されていた。

乱歩は、まずこの弁士を目指そうと弟子入りを試み、それが叶わぬとなると、さらに映画監督を目指して、国立国会図書館の前身である上野の帝国図書館へ通って映画関連の蔵書を読んで映画を研究したことを記したのが「映画横好き」（初出・『映画と探偵』大正14（１９２５）年４月（未見）。引用は『江戸川乱歩全集　10巻』平凡社、昭和６（１９３１）年より）という随筆である。

序に、次には監督志願の話だ。

それは、其後私が幾つかの職業を転々して、東京は団子坂に於て古本屋を開業してゐた当時のことである。多分大正七八年の頃でもあつたか、その時はあながちパンの為ではなかつた。古本屋にも飽きて、何か商売換へをしようとして思ひついたのが又しても活動写真だ。それといふのも、よくよく

私は映画を見ていると恐ろしくなります。
あれは阿片喫煙者（あへんきつえんしゃ）の夢です。
――「映画の恐怖」

右画像は（1）-（7）
乱歩に「貧弱な図書館の蔵書」と書かれてしまったが、初期の映画理論書である帰山教正『活動写真劇の創作と撮影法』（正光社、1921）でも、参考書として（1）-（3）、（6）が上がっており、基本をおさえた適切な選書となっていたようである。

（1）*Motion picture making and exhibiting* by John B. Rathbun ＜請求記号 209-182 ＞大正 4(1915).2.3 購求

（2）*Moving pictures, how they are made and worked* by Frederick A. Talbot ＜請求記号 170-178 ＞明治 45(1912).3.27 購求

（3）*Motion-picture work* by David S. Hulfish ＜請求記号 198-76 ＞大正 2(1913).7.4 購求

（4）*Making the movies* by Ernest A. Dench ＜請求記号 217-64 ＞大正 5(1916).2.10 購求

（5）*The art of the photoplay* by Eustace Hale Ball ＜請求記号 209-55 ＞大正 3(1914).10.3 購求

（6）*The photoplay; a psychological study* by Hugo Münsterberg ＜請求記号 219-181 ＞大正 5(1916).11.21 購求

（7）*Practical cinematography and its applications* by Frederick A. Talbot ＜請求記号 203-166 ＞大正 3(1914).3.3 購求（右ページの牛）

（8）*The policy and standards of the National Board of Censorship of Motion Pictures : reissued Oct. 1* ＜請求記号 205-365 ＞大正 5(1916).11.21 購求

（9）梅屋庄吉『活動写真百科宝典』http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/853860（モノクロ画像）明治 45(1912).2.26 寄贈

（10）三田谷啓『活動写真に関する調査』http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/944487（モノクロ画像）大正 5(1916).12.6 寄贈

（11）権田保之助『活動写真の原理及応用』http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/951523（モノクロ画像）大正 3(1914).10.22 内務省交付

好きの道なればこそである。

弁士志願の時であつたか、或はそののちであつたか、一時私は上野図書館へ、活動写真の本を読みに通つたことがある。何分貧乏人の事で丸善に註文するなんて贅沢な真似は出来ない。貧弱な図書館の蔵書丈けで満足する外はないのだ。当時の日記帳を繰つて見ると次の数冊が上野図書館蔵書の全部であつたものの様である。

一部、転記ミスなどもあるので、現在の目録のデータに従って、乱歩の上げた書目を請求記号、受入日を加えて上に示す。

（8）パンフレットに近いこうした小冊子が輸入されていたことに驚かされる。映画の影響力をどうコントロールするかについての関心が高まっていた証左であろうか。

男の子らは縄跳びをして遊んでいた。長い縄の弦が、ねばり強く地をたたいては、空に上がつた。田舎縞の前をはだけた二人の子が、ピョイピョイと飛んでいた。その光景は、高速度撮影機を使つた映画のように、如何にも悠長に見えた。

――「白昼夢」

（2）の翻訳
フレデリック・エー・タルボット 著、梅屋庄吉 訳
『活動写真撮影術宝典　第１輯』梅屋庄吉　大正5
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/956546
（モノクロ画像）

（2）p.16　コマ送りの仕組みを説明している

乱歩はいう。

私は数日を費して、それらの書物を一通り読んだのである。そして、ひとかどの活動通になつた気で『映画のトリツクを論ず』なんていふ論文を書いたりしたものである。その原稿は今でも持つてゐるが、右の書物のトリツクに関する部分を比較対照して私独特のトリツク論を組立てたものなのだ。…トリツク論其他二三篇の論文を書いてそれを当時の各映画会社に送り監督見習（！）採用の儀を申出でた…

この随筆には大正7（1918）～8（1919）年という年代が記されているが、乱歩研究では、草稿に見える記述と、乱歩の住所変遷の記録から、映画関連書を渉猟したのは、大正6（1917）年6～7月の時期と考証されている。参照された資料の受入時期や、大正6年9月21日に寄贈された（2）の翻訳『活動写真撮影術宝典第一輯』（上画像）がリストにないことも、この見解を支持する傍証といえよう。

伝存する乱歩の映画関連草稿リスト

蜃気楼とは、乳色のフィルムの表面に墨汁（ぼくじゅう）をたらして、それが自然にジワジワとにじんで行くのを、途方（とほう）もなく巨大な映画にして、大空にうつし出したようなものであった。

――「押絵と旅する男」

乱歩映画論草稿（立教大学所蔵）リスト

①「映画論」
翻刻・落合教幸『大衆文化』6号（2011年）

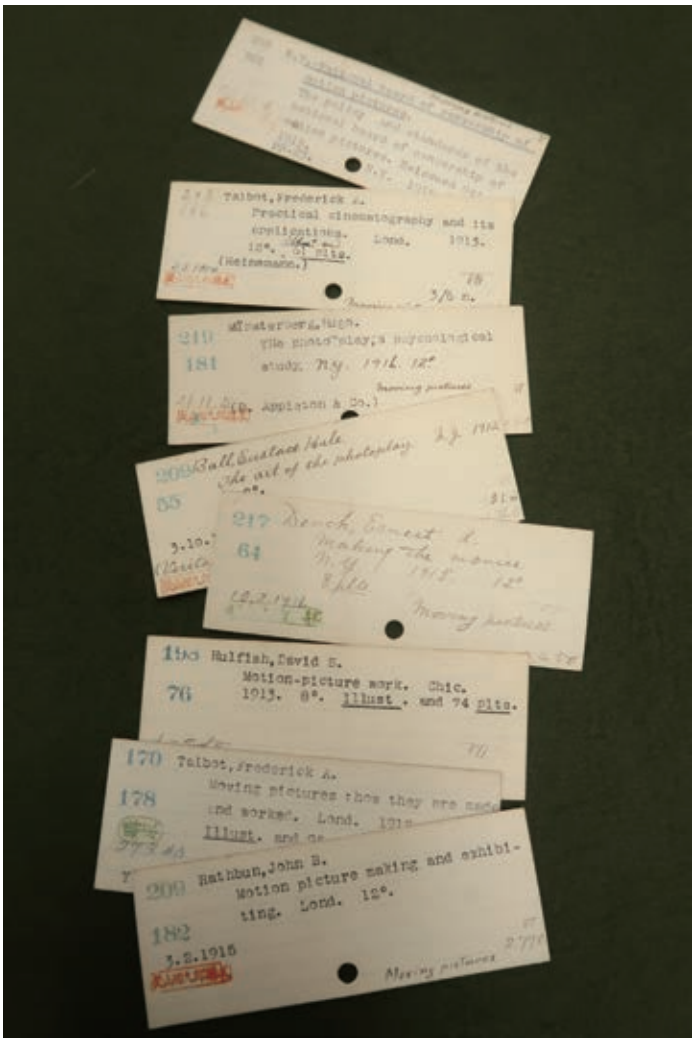
②「活動写真のトリツクを論ず。」
翻刻・落合教幸『大衆文化』5号（2011年）

③「トリツク分類草稿」

④「トリツク写真の研究」
翻刻・落合教幸『大衆文化』7号（2012年）

⑤「写真劇の優越性につい（き）て」
翻刻・浜田雄介『文学』3巻6号（2002年）

（1）-（8）の目録カード。
購求元と購求日が記録されている。大手の書肆、丸善からは（3）（4）の2冊のみで、残りは山田九郎＝中西屋書店から入っている。これらの本を扱った時期が、丸善のデッドストックや汚損本を処理する古書店として出発した中西屋書店の最盛期だったのかもしれない（後、大正9（1920）年に丸善に吸収合併されている）。



（左ページ表）の④はミュンスターベルヒ（今日では一般にミュンスターバーグと表記される）の映画論（6）によって映画の審美的価値を教えられたこと、（1）（3）（11）でのトリック技術分類の不備を指摘し、体系化を試みることが宣言されており、これらを乱歩が参照していたことが確認できる。

冒頭に掲げた張りぼての牛の写真は、科学研究方面での映画利用に力点を置き、野外での動物撮影に関わる図版を多く集めた、アマチュア向け映画製作の手引き書（7）より採った。乱歩はこの書物について何も語っていないが、探偵を人間観察の営為と考え、殺人を人間の獣性の発露と見れば（「凶悪な犯人に動物のイメージを重ねるのは、乱歩作品、特に『陰獣』以後には一種のお約束ともなってゆく。」（浜田雄介「『悪魔が岩』解説」『江戸川乱歩』河出書房新社、2003）、動物観察の工夫が後の創作に影響を与えていたとしても不思議ではない。

張りぼての牛から人間椅子、あるいは郵便ポストに扮する怪盗（『怪奇四十面相』）までの距離は、意外に近いのかもしれない。

※乱歩作品からの引用は『江戸川乱歩全集』（春陽堂 1955）＜請求記号 918.6-E22e＞より

館内スコープ

システムから来館利用サービスを支えます

国立国会図書館には、東京本館、関西館、国際子ども図書館3施設の合計で、約500台の利用者用端末（デスクトップパソコン）が設置されています。当館に来館された方のほとんどが、こちらの端末を操作して資料を利用します。端末にログインすると、館内で利用できる各種サービスのメニューが表示され、所蔵資料の検索・申込ができる「国立国会図書館オンライン」や、電子ジャーナルなどを提供する契約データベースの一覧ページ、複写申込書作成ページなどに進むことができます。

私の所属する情報サービス企画係は、この端末を中心としたシステムの企画・調整を行っています。「○○画面の表示をもっと利用者にわかりやすい形にしてほしい」、「このエリアに端末を移設して混雑時の端末不足を解消したい」、「職員用画面に△△機能があれば、より効率的に申込を処理できる」など、利用者や職員から寄せられる端末・システムに関する要望をもとに、システム部門と協力して改善していくというのが主な仕事です。

日々の業務では、よりよいサービスの実現にはどのようなシステムを作っていくべきか、ということをよく考えています。時間や予算、技術面での制約があるため、すべての要望にすぐにお応えすることはなかなか難しく、心苦しく思うこともあるのですが、関係部署とミーティングを重ね、優先順位をつけて一つ一つ対応しています。また、現場で来館利用者の方と接すると、端末の操作でつまずきやすい部分や、資料を利用して返却するまでの動線がよくわかります。そのような気付きは、今の端末やシステムを改善するときの参考となるだけでなく、将来システムを大きくリニューアルするときの材料にもなります。

「書庫内の雑誌を閲覧したい」、「戦前の古い写真を見たい」、「地図をコピーしたい」、「新聞記事を調べたい」――さまざまな目的をもって国立国会図書館に来館される方にとって、利用者用端末は、多様な資料・情報の玄関口です。当館を訪れるすべての方が、真に求める資料にたどり着けますようにと願いを込めながら、仕事に取り組んでいます。

（サービス企画課 情報サービス企画係　実梅）

ミニ電子展示「本の万華鏡」第26回

恋の技法

―恋文の世界―

突然ですが、あなたは恋文を書いたことがありますか？

ミニ電子展示「本の万華鏡」第26回「恋の技法―恋文の世界―」では、江戸時代以降の恋文の手引書や恋文にまつわる文化など、豊潤な「恋文の世界」を取り上げています。

過去の恋文そのものは現在になかなか残っていませんが、資料を通して「恋文の世界」をのぞいてみると、先人たちがなんとか〝恋〟を成就させようと凝らしてきた工夫や苦労の足跡、すなわち「恋の技法」がきっと見えてくるはずです。

恋文を書いたことがある方もない方も、「恋文の世界」をどうぞお楽しみください。

ミニ電子展示「本の万華鏡」って何?

ミニ電子展示「本の万華鏡」は、国立国会図書館のウェブサイト上で 2009 年 5 月から公開しているコンテンツで、今年 10 周年を迎えました。

今月号では、今年 5 月に公開した「本の万華鏡」第 26 回から抜粋して誌面上でもお届けします。

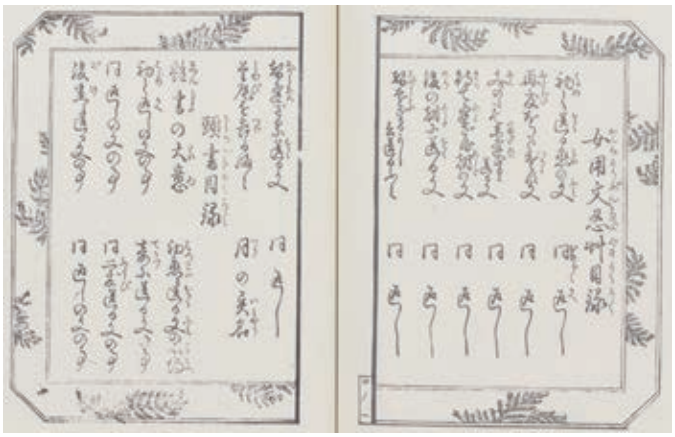
ウェブサイト上の「本の万華鏡」では、ストーリーを楽しむだけではなく、国立国会図書館デジタルコレクションへのリンクなどにより紹介資料をより詳しくご覧いただけます。また、和菓子、囲碁、登山、アフリカ、お花見、南極などなど、過去 25 回のさまざまなテーマにいつでもアクセスできます。どうぞ誌面とあわせてお楽しみください。

https://www.ndl.go.jp/kaleido/

江戸時代の恋文あれこれ

恋文のマニュアル本！

まず、江戸時代の典型的な恋文の手引書をご紹介します。これらは恋文の模範文例や書き方のアドバイスを掲載している、いわばマニュアル本と言えます。



『女用文忍草（おんなようぶんしのぶぐさ）』
（『江戸時代女性文庫 32』大空社，1995【GB391-E89】所収）

宛先いろいろ、焦らしが肝心

本書は江戸後期刊とされ、作者は不明です。場面別の恋文の往復文例や恋文作成のノウハウを伝授する他、恋愛に関する相性占いも掲載しています。目録（目次のこと）からは、「初て送る恋の文」「文のみにて未逢ざるに送る文」「艶書（えんしょ）の大意」などの豊富なラインナップが見てとれます。

さらに、宛先に着目すると様々な恋の相手が浮かび上がります。例えば、「妾に送る文の事」「後家に送る文の事」とあります。他にも尼僧や奥女中、下女も恋文の宛先として挙がり、実に多様です。

本文には文例とともに様々なアドバイスも載っています。「恋路の心得の事」には次のようにあります。

・男性が初めて送った恋文に女性がすぐに返事をするのは軽はずみでよくない。
・すぐに女性から返事をする場合でも「あまりにも早速のお返事をご覧になり、あなたがどうお思いになるかと考え、恥ずかしながら」と少し断りを書くとよい。

長松軒『遊女案文（ゆうじょあんもん）』
扇屋利助［ほか１名］，寛政８刊
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539863/5

遊女の恋文マニュアル

これは遊女向けの恋文の手引書で、目次には「二度の客へ遣るふみ」「馴染の客へ遣る文」「しばしこぬ客へ遣る文」などが見え、文例には来訪を懇願する表現が見られます。また、遊郭の月々の祝いの日には必ず客を取る必要があったため、その日の遊興を依頼する文例も載っています。本文では恋文の文例のあとに「心得」も指南されています。「二度の客へ遣るふみ」の「心得」で説かれる接客のコツをご紹介しましょう。

・客への対応は悪いのはいけないが、過剰なのもよろしくない。ほどほどがよい。
・特に一夜を過ごした翌日の別れの朝が重要である。別れの朝の言葉にこそ、思いの詰まった恋しさがある。抱きしめることを別れの秘事と言うのは不精なことである。

古典が恋文のお手本に!?

ここでご紹介する資料も江戸時代に恋文の手引書として流布したものです。先にご紹介した典型的な手引書とは違い、当時の古典、例えば平安時代の和歌や有名なエピソード（故事）などが盛り込まれており、その上で実用書としても成立し、人気を博しました。

『詞花懸露集（しかけんろしゅう）』みすや又右衛門，元禄 11
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539005/39

中世以前の文芸に学ぶ

本書は序文の恋文の心得・故実とそれに続く恋文の文例集、中世の女性向けの教訓書『庭のをしへ』、平安時代の歌合『堀河院艶書合（ほりかわいんえんじょあわせ）』など多彩な内容を一冊にまとめた絵入の仮名文の資料です。実用的な恋文の手引書として、当時の人々に相当の需要があったようです。

実用書とはいえ、その中身は古典教養に根ざしたものでした。例えば、恋文の心得・故実には『源氏物語』の語、その巻名や人物名を度々見出すことができ、文例集の各段の恋文や添付の和歌も同作をベースに創作されています。

『堀河院艶書合』とは康和4（1102）年閏5月2日、同7日に開かれた堀河天皇主催の歌合の記録で、恋文の模範として後世の公家や武家の子女の情操教育のため広く用いられました。また、歌合に続けて恋文と和歌も附載されていますが、ここにも『源氏物語』の影響が見られます。

『うすゆき物語 2巻』松会，寛文 5
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539938/16

恋文にあふれた仮名草子

本書は中世以前の様々な故事や和歌を引きながら、恋文の応酬を中心に物語が展開する仮名草子です。物語中の手紙が恋文の文例として読まれるという実用性もあり、江戸時代に大変流行しました。

主人公の園部の衛門は清水寺で薄雪（うすゆき）を見初めて以来、恋文を送り続けます。既婚者の薄雪は求愛を拒み続けるものの、やがて二人は結ばれます。しかし、その後の物語は薄雪の急死、園部の衛門の出家と往生で幕を閉じます。画像中、部屋の奥で薄雪が手に持つのは園部の衛門からの恋文です。

明治・大正・昭和の恋文あれこれ

明治・大正・昭和初期の恋文マニュアル
―変わらない恋心、変わる愛の言葉―

明治時代を迎えても、手紙の文体には「候文（そうろうぶん）」が江戸時代から引き続き使われます。「候文」は、丁寧な表現として「ます」の代わりに「候」が用いられる、やや形式ばった書きことばでした。しかし、書きことばと話しことばを一致させる試みが始まり、明治時代の末頃になると手紙一般の文体がより豊かな感情表現ができる「口語体」へと徐々に移行し、恋文もその変化の波にのまれていきます。

何となう心苦しきまでにこがれて候

本書は明治22（1889）年出版の、男女が送りあう手紙の文例集です。

文例の中の一つ、「見初（みそめ）たる女に贈る文」を見てみると、一部に「候」が用いられる堅い書きぶりで、書き手の真剣な面持ちが目に浮かぶようです。

本書の後半には、附録として「目の大なるを小さく見する法」などの化粧法指南も掲載されています。

すいたらしき御方と存候（ぞんじそうろう）より胸の炎も休まらず
何となう心苦しきまでにこがれて候

花柳粋史編
『男女必読思ひのかけはし』
明治 22
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/848937

私、ラブ？したんぢやないでせうか

本書は「現代の、若き男女の手紙を、大なる努力と苦心とによつて集めて見た」として、大正時代の刊行当時の「青年子女」による実際の書簡文集をうたった資料です。掲載された手紙の信憑性は定かではありませんが、「瞳の明るき乙女より」と題された右の恋文は、くだけた口語体で軽やかに自らの恋心を伝えています。候文から口語体への変化によって恋文がより自由なものへと変化していったことがわかります。

この間は失禮（しつれい）してね。まだ目のまへにチラつきますの、貴方のお顔が――ほゝゝ。私、ラブ？したんぢやないでせうか。ねえ。若し眞實（ほんと）に戀（こひ）してゐるのでしたら――貴方は什麼（どう）なさる。叶へて下さる。え？

磯野芳子編
『新らしき女の手紙』
大正 2
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/905939

顔が眞赤（まつか）になりましたわ

本書は昭和3（1928）年の手紙文例集です。女性が男性からの求婚を受け入れる手紙の文例の一つは左記のように、嬉しさや恥ずかしさといった感情が生き生きと表現されています。当時の人々も愛や恋の胸の高鳴りをこのように恋文に託していたのであろうか、と思わず想像してしまいます。

意外なお手紙を戴いてどんなに嬉しく拝見したか解りませんわ。眞實（ほんたう）に夢のやうですわ。
（中略）
羞（はづ）かしさと、嬉しさの爲（た）めに胸がワクくして、顔が眞赤（まつか）になりましたわ。

文芸研究会編
『多情多恨若き女性の手紙』
昭和 3
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1112419

少女同士の親密な手紙
―エスという関係から―

恋文を送り合うのは男女とは限りません。主に明治末から昭和初期にかけて広まっていたとされる「エス」と呼ばれる少女同士の親密な関係に注目し、雑誌に投稿された少女たちの愛の手紙を見てみましょう。

仲睦まじく帰り路を歩く二人の少女の絵は、当時の少女雑誌の挿絵を数多く手がけた高畠華宵（たかばたけかしょう）による作です。

高畠華宵「落葉の帰り路」『少女倶楽部』2巻11号, 1924.11【Z32-411】

少女雑誌とエスの世界

洋画家の清水良雄による表紙絵が華やかなこの雑誌は、当時刊行が相次いだ少女雑誌の内の一つ『少女世界』です。

エスとは、シスター（sister）の頭文字をとった言葉で、友情とも恋愛ともつかない少女同士の疑似姉妹的な親密な関係のことです。少女雑誌に次々と掲載されたエスをモチーフとする「エス小説」を愛読しながら、自身も現実の学校生活の中でエスの関係を築いていた少女たちも少なくなかったようです。そして現実の学校生活の中でエスの関係を結んだ少女たちにとってなにより大切なのは、互いに手紙をやりとりすることでした。では、彼女たちはどんな手紙を送りあっていたのでしょうか。

『少女世界』13巻1号, 1918.1【Z32-B260】
表紙（清水良雄 画）

『少女画報』15巻3号, 1926.3【Z32-551】
表紙（高畠華宵 画）

少女から少女への情熱の手紙

この手紙は、雑誌『少女画報』の「薔薇のたより」という読者投稿ページに掲載されたものです。このコーナーには特定の相手を想定した手紙文が読者の少女たちから数多く寄せられましたが、中にはこの手紙のように少女から少女への恋文とも呼べるような情熱的な手紙が数多く存在しました。彼女たちが現実生活でやりとりした手紙がこのような内容であったかはわかりませんが、こうして雑誌に掲載された手紙をのぞいてみると、彼女たちの間には単なる疑似姉妹を超えた特別な親密さがあったことがうかがい知れます。

貴女は少しも知つてゐらつしやらないんですもの。私のため息。私のひとりごと。私の泪（なみだ）。私の手紙。それらのひとつびとつが貴女をお待ちして居りますのに。

（中略）

あゝ愛するOよ。貴女の目は何故そんなに美しいのか。貴女の目は何故そんなに私の心をとらへてはなさないのか。Oよ私の胸ははち切れてつぶれてしまひさうだ。一體（たい）どうしたらいゝのだらう。

（投稿者）正木まゆみ「書けなかつたこと」

恋文の名手
―樋口一葉をめぐる恋文譚―

ここでは一人の人物に焦点を当て、より具体的な恋文の世界をのぞいてみましょう。

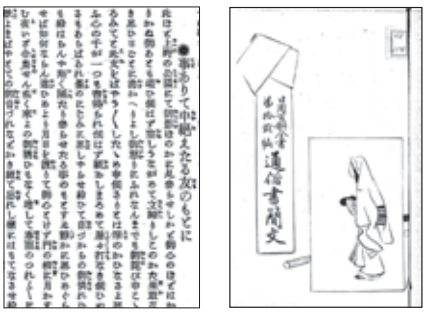
主人公は明治の小説家、五千円札でお馴染みの樋口一葉です。短い生涯で数々の名作を残した一葉は、手紙の名手でもあり、恋文をめぐるエピソードにも事欠かない人物でもありました。

樋口一葉は明治5（1872）年に東京で生まれ、明治19（1886）年、中島歌子の歌塾萩の舎に入門しました。その後明治24（1891）年には半井桃水（なからいとうすい）に師事して小説を書き始めましたが、明治29（1896）年に若くして亡くなりました。

樋口一葉肖像
（電子展示会「近代日本人の肖像」より）

一葉のお手紙マニュアル

これは一葉自ら執筆した手紙の手引書で、文体は前述の候文です。恋文の文例は未収録ですが、女学校出の友人同士の文通を想定した「事ありて中絶えたる友のもとに」では、一人の女性が友に宛てて、疎遠になったことの悲しみと変わらぬ思慕の情を切々と語ります。恋文に通じる趣があり、先にご紹介した少女同士の恋にも似た感情を指摘する説もあります。「此ほど上野の公園にて御影ほのかに見参らせしかど…」から始まる書き出しは小説の一場面のように美しく、一葉の優れた文才を堪能できます。



樋口一葉（夏子）編『通俗書簡文』（日用百科全書 第12編），博文館，明治29
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/866301

一葉の恋

一葉の恋愛としては小説の師である半井桃水との関係が知られており、彼に宛てた手紙が多く残されています。当時19歳の一葉は、12歳年上の桃水と交流を重ねる中で恋心を抱いたようですが、出会いから1年程経った頃二人の間を邪推する噂が立ちます。この時、一葉が桃水に交流の断念を伝えるために書いた手紙が『樋口一葉全集』第4巻下（和歌3，書簡．和歌索引）【KH1342】に収録されています。

…私しは唯々まことの兄様のやうな心持にていつまでも〳〵御力にすがり度願ひに御坐候を斗らぬ事より變な工合（具）になり只今の所にては私しひてお前様におめもじ致し度など、申さば他人はさら也親兄弟も何とうたがふか知れ申さずとに角にくやしき身分に御坐候…

明治25年7月8日付け 師の君（半井桃水）宛

直接的に「好き」と伝えているわけでなく、「あなたを先生とも兄だとも思って慕っていただけなのに、こんな噂が立ってお会いできなくなるのは悔しい」と述べているのですが、湧き上がる思いを必死に打ち消すかのような感情の高ぶりが読み取れます。

…師の君なり兄君なりと思ふお前様のこと誰人か（ぞ）何と申傳へ候とも夫を誠と聞道理もなく…

明治25年8月10日付け 御兄上様（半井桃水）宛

ミニ電子展示会「本の万華鏡」第26回から抜粋してお届けしました。ウェブサイト上の「本の万華鏡」では、より多くのエピソードや資料をご紹介しています。どうぞご覧ください。

本の万華鏡　検索

本屋にない本

京のかたな
Swords of Kyoto
匠のわざと雅のこころ　特別展

京都国立博物館、読売新聞社 編
読売新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
2018.9　273p　31cm
<請求記号　KB16-L1527>

「相槌を打つ」、「切羽詰まる」、「反りが合わない」…きっと誰もが一度は耳に、または口にしたことがあるはずだ。これらは日本の刀剣文化に由来する慣用句である。刀剣は遠い過去の遺物ではなく、実はその名残りが現代も日本人の生活に息づいているのだ。

今回紹介するのは、平成30年の秋、京都国立博物館で開催された「特別展京(みやこ)のかたな ―匠のわざと雅のこころ」の図録である。本書は、刀剣の流派の一つであり、800年も連綿と受け継がれてきた京都・山城系鍛冶の技術・伝統とそれが刀剣文化に与えた影響を、平安時代後期から現代に至る全8章で探るものである。武士の台頭に伴う山城系鍛冶の誕生、技術の進歩や各地に伝播し隆盛していく有様、応仁の乱などの苦難の時代を経て、桃山時代に京(みやこ)と共に復興し展開する刀剣の系譜を辿ることができる構成だ。

本書の特徴は、論考を概要のみに留め写真を主体とし、国宝19件、重要文化財61件を含む約170件もの刀剣を紹介している点にある。精緻な写真は、地鉄(じがね)のきめや繊細な刃文から、刀身全体まで、各刀剣の魅力を率直に伝えている。また、作者や所有者などを表す銘を拡大し示す工夫も光る。

時系列で紐解かれる刀工・刀剣の道のりを辿ることは、刀剣を愛する読者にとっては、知識を鮮やかに結び付け、理解を深める好機となるはずだ。一方で刀剣には疎いという読者にとっても、形状や銘、来歴や号など、刀剣に刻まれた時代・世相の痕跡を追う面白さに触れる糸口となるだろう。なお専門用語も、巻末に図解と共に収録されているため安心されたい。

刀剣は決して不変のものではない。大火に遭えば焼け、湿気があれば錆びる。むろん武器として使われ続ければ、減りも欠けも折れもする。

本書から興味深い一例を紹介したい。出品目録七・国宝 太刀 銘 三条(名物三日月宗近(みかづきむねちか))。制作年代は十二世紀。刀身中に見られる、三日月型の打ちのけ(刃文の一種)が名の由来とされる。

「しかしながら、経年による研減の激しさはいかんともしがたく、(中略)その名の由来となっている多くの打ちのけもその結果生じたものであり、宗近の意図したものとは思われない」。

すなわち、経年で生じた偶然の変化と、それを(おそらく)好ましく感じた人々の感性が、この刀を「三日月宗近」という特別な存在にしたと考えられるのだ。

ページをめくるたび、現代の我々は時代を越え、様々な刀剣に出会う。細やかなキャプションと写真が伝えるその姿と来歴に、何一つ同じものは無く、いずれにも比類ない美がある。そしてその一口一口が、多くの偶然と、刀工や歴代の所有者が注いだ「こころ」によって、正に現存するその奇跡に気づかされるはずだ。

今日に繋がる人と刀剣の歴史に思いを馳せる一冊である。　(髙橋玲奈)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

新刊案内

レファレンス　819号

日本型司法取引制度の現状と課題
フランスの公文書管理行政―文書専門職員の派遣を中心に―
性の在り方の多様性と法制度―同性婚、性別変更、第三の性―
再生可能エネルギーの現状と課題
医療の質と「実績に基づく支払（P4P）」―諸外国の事例を中心に―

A4　98頁　月刊　1,000円（税別）
発売　日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会
〒104-0033　東京都中央区新川1-11-14
電話　03（3523）0812

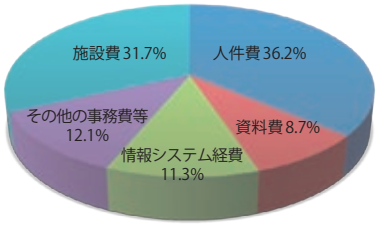
国立国会図書館の令和元年度予算

国の令和元年度予算が平成31年3月27日に成立しました。国立国会図書館の令和元年度歳出予算額は、272億7900万3000円です。その概要は、表のとおりです。

令和元年度歳出予算額　（単位：千円）

（項）国立国会図書館	18,640,985
人件費	9,879,319
国立国会図書館共通経費	177,835
国会サービス経費	455,696
資料費	2,361,955
うち納入出版物代償金	393,862
情報システム経費	3,089,079
東京本館業務経費	1,554,921
国際子ども図書館業務経費	261,533
関西館業務経費	860,647
（項）国立国会図書館施設費	8,638,018
関西館第２期第１段階施設整備費	7,453,354
東京本館庁舎整備費	1,092,344
関西館庁舎整備費	92,320
計	27,279,003

予算の費目別構成比（令和元年度）



NDL百景

＃13
資料保存課和装本保存係で用いる刷毛

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2019.6

6

NO.698
JUNE
2019

CONTENTS

01 <Book of the month - from NDL collections>
Bibliotheca sinica by French orientalist and bibliographer Henri Cordier
—500 years of Sinology in Europe and the United States

05 Travel writing on world libraries:
A Tale of Three Cities on the US East Coast
—Boston, New York, and Washington D.C.

18 Edogawa Ranpo and Motion Pictures
—Research at the Imperial Library

23 Kaleidoscope of Books (26)
"Expressing romance in words—the world of love letters"

22 <Tidbits of information on NDL>
System support for onsite library services

29 <Books not commercially available>
Miyako no katana — Swords of Kyoto

30 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

発行所　国立国会図書館
編集責任者　三浦　良文

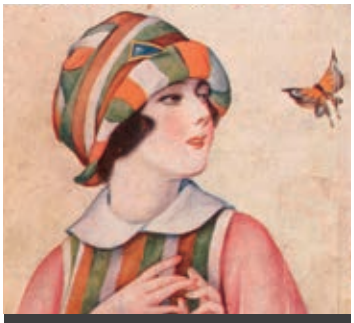
〒100-8924　東京都千代田区永田町1-10-1
電話　03（3581）2331（代表）
FAX　03（3597）5617
E-mail　geppo@ndl.go.jp
http://www.ndl.go.jp/

令和元年6月号（No.698）
令和元年6月1日発行

印刷所　株式会社 丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞刊行物＞国立国会図書館月報でご覧いただけます。

ISSN 0027-9153



NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2019.6

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館